

ぺれにある

1998年1月 No. 2 2
北海道立天北農業試験場
〒098-5736 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘
TEL 01634-2-2111
FAX 01634-2-4686

牧草優良品種の特性 (マメ科牧草編)

アカクローバ

アカクローバの優良品種は10品種登録されています。栽培地域に限定がつく場合があるので注意が必要です。

チモシーとの混播の場合、チモシーを抑圧してアカクローバが優占することがあります。この様な恐れがあるときは草勢の穏やかな品種「ホクセキ」、「タイセツ」などを組み合わせるのが良いでしょう。

アカクローバ優良品種の特性一覧

| 品種名 | 登録年 | 利用目的 | 特 性 | 栽培地域 |
|----------|-----|------|-------------------|------|
| サッポロ | 昭41 | 採草 | 早生、再生良 | 全道 |
| ハミドリ | 41 | 採草 | 早生、うどんこ病強 | 道北 |
| ハミドリ 4 n | 54 | 採草 | 早生、越冬性良、4倍体品種 | 十勝除く |
| ハヤキタ | 54 | 採草 | 早生、越冬性良、4倍体品種 | 根釧 |
| タイセツ | 平 2 | 採草 | 早生、耐雪性・永続性良、4倍体品種 | 全道 |
| ホクセキ | 2 | 採草 | 早生、耐寒性・永続性良 | 全道 |
| メルビィ | 2 | 採草 | 早生、越冬性良、茎割病弱 | 全道 |
| エムアールワン | 2 | 採草 | 早生、越冬性良、うどんこ病強 | 根釧除く |
| テトリ | 5 | 採草 | 早生、2番草旺盛 | 道東 |
| マキミドリ | 5 | 採草 | 早生、越冬性良、うどんこ病強 | 全道 |

シロクローバ

シロクローバの優良品種は9品種登録されています。葉の大きさで大葉型、中葉型、小葉型の3つのタイプに分類します。

チモシーとの混播で採草利用する場合、大葉型の品種は草勢が旺盛なのでチモシーを抑圧しシロクローバが優占することがあるので注意が必要です。この様な恐れのあるときは中葉型の品種と組み合わせるのが良いでしょう。

小葉型の品種は葉が小さく草丈も短いが特にほふく茎密度が高いので放牧地に向いています。

シロクローバ優良品種の特性一覧

| 品種名 | 登録年 | 利用目的 | 特 性 | 栽培地域 |
|-------------|-----|-------|---------------------|-------|
| カリフォルニアアラシノ | 昭46 | 採草・放牧 | 大葉型 | 全道 |
| フィア | 46 | 放牧 | 中葉型、再生良好 | 道央・道南 |
| リーガル | 50 | 採草・放牧 | 大葉型、永続性良 | 全道 |
| ソーニヤ | 63 | 採草・放牧 | 中葉型、ほふく茎密度高 | 全道 |
| マキバシロ | 平 3 | 放牧 | 中葉型、永続性良 | 全道 |
| ルナメイ | 8 | 採草・放牧 | 大葉型、ほふく茎密度高 | 全道 |
| ラモーナ | 8 | 採草・放牧 | 中葉型、ほふく茎密度高 | 全道 |
| リベンデル | 8 | 放牧 | 小葉型、ほふく茎密度高、チモシーと混播 | 全道 |
| タホラ | 8 | 放牧 | 小葉型、ほふく茎密度高、チモシーと混播 | 全道 |

アルファルファ

アルファルファの優良品種は9品種登録されています。昭和55年以降バーティシリウム萎ちょう病が蔓延し栽培が頭打ちになったのを契機に、抵抗性品種の導入・開発が進み、現在抵抗性品種は7品種あります。

バーティシリウム萎ちょう病抵抗性品種の中では「マキワカバ」と「ヒサワカバ」が多収で、越冬性、そばかす病抵抗性が改良されています。

アルファルファ優良品種の特性一覧

| 品種名 | 登録年 | 利用目的 | 特 性 | 栽培地域 |
|-------|-----|------|---------------------|------|
| キタワカバ | 昭58 | 採草 | 早生、倒伏にやや弱、いぼ斑点病に強 | 全道 |
| サイフォン | 59 | 採草 | 中生、そばかす病、いぼ斑点病にやや弱 | 全道 |
| マヤ | 平 2 | 採草 | 早生、VW病抵抗性、そばかす病にやや強 | 全道 |
| アロー | 2 | 採草 | 早生、VW病抵抗性 | 全道 |
| 5444 | 2 | 採草 | 早生、VW病抵抗性 | 全道 |
| ユーパー | 2 | 採草 | 早生、VW病抵抗性 | 全道 |
| バータス | 2 | 採草 | 早生、VW病抵抗性 | 全道 |
| マキワカバ | 6 | 採草 | 極早生、VW病抵抗性、そばかす病に強 | 多雪地帯 |
| ヒサワカバ | 6 | 採草 | 早生、VW病抵抗性、そばかす病に強 | 少雪地帯 |

注 VW病はバーティシリウム萎ちょう病

草地更新の奨め

2回にわたり、主要草種の優良品種の特徴などを簡単に述べてきました。

新しい品種は収量性、永続性、耐病性、耐倒伏性や混播適性などの形質が改良されています。草地の生産性向上や品質アップのために新しい品種を栽培したいものです。

新しい品種の導入は草地更新のチャンスしかありません。しかし、草地更新は年間3万4千ha前後で草地全体の58万haから見ると約6%と少なく、なかなか進んでいないのが現状で10年以上経過した古い草地がかなりの割合を占めることとなります。古い草地は土壌が酸性化したり硬くなり、草種構成が悪化し生産性が低下しがちです。

老朽化した草地を更新し、新しい品種を導入し草地の生産性、永続性、耐病性等をアップしましょう。

品種選びのポイント

- 1) 栽培地域：草種・品種により栽培地域が限定される場合があります。
- 2) 利用目的：採草、兼用、放牧利用等により向いている草種・品種があります。
- 3) 刈取りスケジュール：刈取り作業に合わせた幅広い出穂の品種メニューを利用します。
- 4) 混播組み合わせ：適正なマメ科率を維持できるイネ科・マメ科牧草の草種・品種を組み合わせます。
- 5) 品種の耐性を利用：地域で出やすい病害の耐病性品種や、耐倒伏性品種を選定します。
- 6) 新しい品種：収量や永続性、耐病性などの改良されている新しい品種を導入します。

(泥炭草地科より)

糞尿処理開発事業試験5年目を迎える！

畜産関係の研究科がプロジェクトを組んで家畜糞尿の処理法や草地に還元する許容量の限界等について、検討しています。

天北農試では、草地へ還元可能な限界量を生産性の面や窒素の流出の面から検討しています。

草地への還元量の限界としては台地土、泥炭土について、表面連用施用一
堆きゅう肥32t/10aまでを検討しています。

一方、丘陵地主体で積雪の多い、この地域で、問題となっている融雪時の
秋散布堆きゅう肥の流亡について、傾斜角度の影響や集積しやすい場所での
動きについて解析を行っています。